

講義名：日本語学概論 ＜春集＞		ナンバリングコード： 0	
担当教員名： 有川 康二			
研究室： 聖アンデレ館6階624号室		オフィスアワー： 火曜日、金曜日の昼休み	
		メールアドレス： karikawa@andrew.ac.jp	
授業形態			
『講義』			
講義・演習概要			
ONE PIECEのルフィが涙や鼻水を流しながら「仲間がいる`よ！」って叫んでるけど、「る`」ってちょっと変。なぜ？でも、なんとなくわかる。なぜ？「ゴミ箱」は[gomibako]だけど、[gomihako]は変。なぜ？「やせた口バの飼い主」と「やせた口バに飼い主」では意味が違う。なぜ？「猫が金魚を食べた」はOK。でも、「猫が金魚が食べた」は変。なぜ？「が」とか「を」って何？「が」と「を」について4ヶ月間徹底的に考えます。「が」とか「を」は母なる自然がつくったウイルスです。ヒト脳内の言語システムは母なる自然がつくったウイルスチェックシステムなんです。意味不明でしょうが、授業を受けると分かります（微笑）。「が」と「を」について徹底的に考えるのは、みなさんの人生で最初で最後の経験となります。日本語のネイティブスピーカーは日本語を文法など意識せずに自由に使えます。日本語はアホほど当たり前のことです。しかし、その日本語の音や文法の法則やメカニズムを説明できません。誰でも脳味噌は使えますが、その法則やメカニズムを説明できません。経験科学の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探ります。科学は、誰もが当たり前すぎて考えるのもアホらしいと思う事柄に驚嘆することから始まります（驚）。子どもはアホなことに驚嘆できるというすばらしい能力の持ち主です。学校教育で失いかけたこのすばらしい能力をこの授業で取り戻してみませんか？「自然言語（ことばをしゃべる）」というアホらしい現象は、物理学の最重要問題である「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」というような一見アホらしい現象と同じように科学の格好の対象となります。			
学習目標			
日本語を三つの視点から概論します。（1）生物言語学の視点＝ヒト自然言語システムは、母なる自然が創造したヒト脳に突然変異と創発的自己組織化が生じて出現した。その一般的性質とはどのようなものか？（2）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明、よりよい説明とはどのようなものか？（3）哲学的視点＝今この瞬間も時速10万8千km（弾丸速度の約19倍）で太陽のまわりを公転している地球の表面に重力でへばりつけられて、自分は今ここで何をしているのか？約150億年前にできた宇宙の中で、46億年前にできた地球の上で、38億年前に生まれた生命のナレノハテとして、何をして、老いて、死んでいくのか？このようなことを日本語でうたうだと考えている自分にとって、日本語とは何なのか？こんなことは大学とお寺でしか言われません（細かいことや最後のことは大学でだけ）。落ち着いて一緒に徹底的に考えてみましょう。			
講義・演習計画			
【第1回】 イントロ。「もの」とは何か。「ころろ」とは何か。（1）		【第16回】 脳とコンピュータ（1）	
【第2回】 「もの」とは何か。「ころろ」とは何か。（2）		【第17回】 脳とコンピュータ（2）	
【第3回】 「もの」とは何か。「ころろ」とは何か。（3）		【第18回】 脳とコンピュータ（3）	
【第4回】 「もの」とは何か。「ころろ」とは何か。（4）		【第19回】 脳とコンピュータ（4）	
【第5回】 「もの」とは何か。「ころろ」とは何か。（5）		【第20回】 脳とコンピュータ（5）	
【第6回】 「よい説明」とは何か。（1）		【第21回】 ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（1）	
【第7回】 「よい説明」とは何か。（2）		【第22回】 ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（2）	
【第8回】 「よい説明」とは何か。（3）		【第23回】 ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（3）	
【第9回】 「よい説明」とは何か。（4）		【第24回】 ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（4）	
【第10回】 「よい説明」とは何か。（5）		【第25回】 ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（5）	
【第11回】 言語の構造（1）		【第26回】 復習とQ & A	
【第12回】 言語の構造（2）		【第27回】 復習とQ & A	
【第13回】 言語の構造（3）		【第28回】 復習とQ & A	
【第14回】 言語の構造（4）		【第29回】 復習とQ & A	
【第15回】 言語の構造（5）		【第30回】 復習とQ & Aと試験	
成績評価の方法			
試験	50%	レポート	
出席			50%
コメント			
筆記試験、平常点としての出席点。平常点としての出席点とは、単に椅子に座っている（または、隣人と無駄話をしている、または、寝ている）のではなく、毎回、配付する質問コメント用紙に積極的に質問やコメントをして、建設的に授業に参加し貢献したかなども含めた総合的な平常点です。			
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
Jenkins, L. (2000) Biolinguistics – Exploring Biology of Language. Cambridge University Press. 酒井邦嘉(2002)『言語の脳科学－脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版			
事前および事後学習の指示（事前学習 60 時間 ・事後学習 60 時間）			
前にやったことを順次理解していかないと、だんだん、珍糞漢糞（ちんぷんかんぷん）になります。予習、復習をしてください。			
その他備考（担当教員用）			
プリント等は授業で配布します。			
キーワード			
備考（管理者用）			

